

知の市場の2010年度後期受講者募集のご案内

感染症総合管理1b

～感染症対策-ワクチンを中心に～

感染症に関する総合的な研究を行う国立感染症研究所が、ヒトの生体防御の働き、ワクチンの効能や安全性などの感染症対策を概説、紹介する科目です。

◆講義日時:2010年9月28日～2011年1月25日

(毎週木曜日18:30～20:30、15回講義)

◆開催場所:早稲田大学西早稲田キャンパス(東京都新宿区)

(地下鉄東京メトロ(副都心線 西早稲田駅直結)

◆講師:国立感染症研究所の研究員15名

◆科目概要(添付「シラバス」参照)

感染症との闘いのためのヒトの生体防御の働き、および感染を予防するためのワクチンの効能、またワクチンの安全性がどのように確保されているのかを説明する。またその中で感染症研究の専門機関、特に国立感染症研究所(感染研)が果たしている機能についても解説する。

◆受講料:無料・受講修了証発行

◆募集期間:2010年6月15日(火)～9月15日(水)

◆応募方法:早稲田大学規範科学総合研究所ホームページ

(URL:<http://www.waseda.jp/prj-iirs/>)*

* 受講申込システムは、internet explorer の設定によって表示されないことがあります。ツールバーにある「ページ」中の「エンコード」を選択し、「自動選択」を選択した上で読み込んでください。

◆知の市場:他にも多くの科目を開講。詳細は <http://www.chinoichiba.org/>参照

連携機関:国立感染症研究所

開講機関:早稲田大学規範科学総合研究所

2010年度後期

知の市場(シラバス)

2010年1月21日現在

新規

科目No.	WT211b	科目名	感染症総合管理1b		副題	感染症対策—ワクチンを中心に—	
連携機関名	国立感染症研究所	レベル	中級	講義日時	火曜日 18:30~20:30	講義場所	早稲田大学西早稲田キャンパス
科目概要	感染症との闘いのためのヒトの生体防御の働き、および感染を予防するためのワクチンの効能、またワクチンの安全性がどのように確保されているのかを説明する。またその中で感染症研究の専門機関、特に国立感染症研究所(感染研)が果たしている機能についても解説する。						

科目構成	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
総論	1	感染と宿主免疫応答	感染(宿主-病原体関係)における宿主免疫応答とその医療応用に関して、病原体に遭遇した場合のヒトの免疫応答の基礎知識やワクチンなど免疫介入治療・予防に関する応用面を概説する。	9月28日	未定	小林和夫	国立感染症研究所 免疫部部長
	2	次世代ワクチンの開発	ワクチンがなぜ効くのかその原理と投与方法等の総論と次世代ワクチンの候補としての粘膜投与型ワクチン、DNAワクチン等の作用メカニズムと効果、開発状況について紹介する。	10月5日		長谷川秀樹	国立感染症研究所 感染病理部室長
	3	感染症の予防とワクチン接種	ワクチンで予防可能疾患の国内及び国外の発生状況、我が国の現行のワクチン接種スケジュール、副反応等を概説し、感染を予防する時のワクチンの重要性を解説する。	10月12日		多屋馨子	国立感染症研究所 感染症情報センター室長
	4	毒素性細菌と生物学的製剤(研究と品質管理)	ジフテリア、破傷風、ボツリヌスの疾病の基礎研究から生まれた医療用トキソイド、抗毒素および毒素製剤の開発過程とそれら生物製剤の品質を管理し安全性を保證する仕組みを概説する。	10月19日		高橋元秀	国立感染症研究所 細菌第二部室長
	5	血液製剤の品質管理	血液製剤として多くのものが使われているが、それらの安全性がどのように保証されているのかの仕組みを紹介する。	10月26日		濱口功	国立感染症研究所 血液・安全性研究部室長
各論	6	世界ポリオ根絶計画とポリオワクチン	WHOを中心にポリオ根絶計画が進められているが、その現状と問題点について、世界的な視点および日本の立場に基づいて解説する。とくに、ポリオ根絶最終段階における、ポリオワクチン戦略に関わる諸課題について説明する。	11月2日		清水博之	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長
	7	肝炎ワクチン	肝炎の発症予防のためにワクチンが開発され、我が国ではA型、B型肝炎ワクチンが任意予防接種として使用されている。特にB型肝炎ワクチンの母子感染予防に果たした役割等について紹介する。	11月9日		石井孝司	国立感染症研究所 ウイルス第二部室長
	8	日本脳炎ワクチン	日本脳炎はかつてわが国では多数の小児が発症し、死者、後遺症併発者が多かったが、現在では発症者は希となった。しかしいまもアジア地域では重大感染症の一つであるがワクチンは普及していない。わが国及びアジアにおける日本脳炎の対策、ワクチンの在り方などについて概説をする。	11月16日		岡部信彦	国立感染症研究所 感染症情報センター長
	9	麻疹・風疹の現状とワクチン	麻疹、風疹の日本、並びに世界の現状、原因となるウイルスの性状、並びに麻疹ワクチン、風疹ワクチンの開発の歴史、効果等を概略する。またWHOがすすめる麻疹排除計画、風疹排除計画についても説明する。	11月30日		駒瀬勝啓	国立感染症研究所 ウイルス第3部室長
	10	結核	結核とはどのような疾患か、起原菌の結核菌の特徴およびBCG接種をはじめとする現在講じられている結核対策を含めて概説する。また、結核菌と近縁のらい菌によるハンセン病についても触れる。	12月7日		牧野正彦	国立感染症研究所ハンセン 病センター-感染制御部長
	11	肺炎球菌感染症とワクチンの現状	老人の肺炎、小児の中耳炎等の原因菌として重要な肺炎球菌が起こす様々な感染症に関する情報とそれを予防するために使われている国内及び国外のワクチンの現状を紹介する。	12月14日		和田昭仁	国立感染症研究所 細菌第一部室長
	12	DPTワクチン	DPT疾患(ジフテリア・破傷風・百日咳)の国内および国外の現状とそれら疾患を予防するために果たしてきたDPTワクチンの役割について概説する。	12月21日		蒲地一成	国立感染症研究所 細菌第2部室長
	13	インフルエンザワクチン	季節性インフルエンザの予防にインフルエンザワクチンが使われている。ウイルスの抗原性が変化するため毎年ワクチン株の選定をおこなう。それにはWHO等による世界の協力が欠かせない。その方法についても紹介する。	1月11日		板村繁之	国立感染症研究所 ウイルス第3部主任研究官
	14	水痘などのヘルペスウイルス	水痘・サイトメガロウイルスなどのヘルペス科ウイルスによる各種感染症及び我が国で開発された水痘ワクチンの現状とその効能について紹介する。	1月18日		井上直樹	国立感染症研究所 ウイルス第1部室長
	15	ヒトパピローマウイルス	ヒトパピローマウイルス(HPV)は性行為を介して感染し、子宮頸がんの原因となるウイルスである。近年欧米にてHPVに対する感染予防ワクチンが開発され、我が国を含む全世界で導入されている現状を紹介する。	1月25日		椋元 巖	国立感染症研究所 病原体ゲノム解析研究センター室長